

Deutscher Turner-Bundの設立時期

—H.ブラウン (Braun) の史的研究に基づいて—

The establishmenttime of “Deutscher Turner-Bund”

— based on historical study of H.Braun —

松尾 順一
MATSUO Junichi

はじめに

F.L.ヤーンよりベルリン郊外のハーゼンハイデの体操場で祖国の統一と解放を希求する体操活動 (Turnen) が始まったのが1811年である。それから200年以上の歳月を経てもこの体操活動は、伝統を連綿と受け継ぎ、ドイツ全土の地域社会の中にしっかりと根を下ろしている。この体操活動を統括する今日の全国的な組織が、Deutscher Turner-Bundである。その同盟には、2016年時点で17,939の体操クラブ (Turnverein) が加盟し、4,970,104名の会員が所属している。世代ごとにみても、1,900,000以上の青少年、2,200,000以上の成人女性、1,000,000以上の壮年・老年者がこの同盟には所属し、老若男女を対象としたドイツを代表する体操の統括団体であるといえる。Deutscher Turner-Bundは、4年に1度体操の祭典であるドイツ体操祭 (Deutsches Turnfest) を開催している。ドイツ体操祭は、1860年にコーブルクにおいてが開催されて以来、その後も継続して開催され、2017年6月にベルリンで予定されているドイツ体操祭で、通算し43回目を迎える。また、2005年ベルリンで開催されたドイツ体操祭から、諸外国からも招待者を募り、インターナショナルドイツ体操祭 (Internationales Deutsches Turnfest) として、新たな第一歩を踏み出したところである。

歴史的にみて、ドイツにおける体操や体操クラブを統括する全国的な組織として、まず1848年にDeutscher TurnerbundとDemokratischer Turnerbundが、1849年にはDer Allgemeine Deutsche Turnerbundが創設された。1868年にはDeutsche Turnerschaftが設立され、1893年にはDeutsche Turnerschaftと並行し、Arbeiterturnerbundも創設された。しかし、1930年代以降の国家社会主義政権の台頭とともに、これらの全国組織は自己解散を余儀なくされた。第2次世界大戦後の1947年には、Der Deutscher Arbeitsausschuss Turnenが創設された。この組織は、1950年に設立された今日のDeutscher Turner-Bundにつながる組織である。Deutscher Turner-Bundは、1952年時点で約6,100の体操クラブと約900,000の会員を抱える組織であった。1953年には戦後初のドイツ体操祭を開催し、その後は会員を伸ばすなど飛躍的發展を遂げ今日に至っている。

このDeutscher Turner-Bundの設立時期については、長年にわたり議論が闘わされ、Deutscher Turnerbundが創設された1848年、ドイツ全土から体操家が参集し第1回ドイツ体操祭を開催した1860年、会則を制定しDeutsche Turnerschaftが設立された1868年と、3つの説が主張されてきた。このような3つの説が主張されてきた背景には、「特にヴァイマル期までのドイツの体育史家が、1848年に創設されたDeutscher Turnerbundは、1849年にDemokratischer Turnerbundに枝分かれし

た後、1850年代には完全に消滅した」と、誤った主張を行ってきたことにあると、H.ブラウンは指摘している。

Deutsche Turnerschaft が創設された1868年から125周年にあたる1993年にフランクフルトで開催されたDeutscher Turner-Bundの連邦文化会議で、H.ブラウンは、史料を提示しながら、Deutscher Turner-Bundの設立年は、1848年であると主張した。さらに、H.ブラウンは、1995年に史料館での調査研究に基づいて、本同盟の幹部に設立年に関する史料を提出した。1995年12月10日、Deutscher Turner-Bundは、提示された1848年から1860年までの史料に基づき、本同盟の設立年月日は、1848年4月3日であると公式に表明した。H.ブラウンは、彼の主張を、『Zur Gründungsgeschichte des Deutschen Turner-Bundes 1848/1860/1868』（Frankfurt/Bremen,1996）に纏めているので、以下でその要旨を示すことにしたい。

1. Deutscher Turnerbundの設立

1848/49年の革命運動の初期において、ドイツの市民は、フランクフルトのパウロ教会においてドイツ国民議会や陪審裁判所の設置、結社、集会の自由を獲得した。このような状況をうけて、ハーナウの体操クラブは、1848年3月17日集会を開催し、ドイツのすべての体操クラブの代表を同年4月3日にハーナウに招集することを議決した。F.L.ヤーンの列席の中、4月3日、Deutscher Turnerbundが設立された。集会では、ドイツを共和国にするべきか君主国にするべきかが激しく議論され、本同盟設立後も、ドイツの体操クラブは、まとまった政治的な姿勢を示していなかった。1848年7月2日と3日に再度、第2回集会がハーナウで開催され、150の体操クラブがその集会に参加した。激しい議論の末、本同盟を政治から切り離す体操家が、91対81で勝利した。勝利した党派は、バロン教会に留まり、会則を僅かに修正した後、Deutscher Turnerbundの存続を確認した。そして本同盟の本部所在地を、マールブルクに決定した。投票に敗れた党派は、場所をドイツ民族会館に移し、ハーナウを本部所在地とするDemokratischer Turnerbundを創設した。席上、その当時もっとも重要なヘッセンの反論紙である「マインツ新聞」が、本同盟の機関誌に決められた。

2. 統合への努力

ニーダーザクセン地区体操クラブ本部事務局のブラウンシュヴァイク体操クラブが、Deutscher Turnerbundのライプツィヒにおける本部事務局に、体操クラブの統合を進めるため、Demokratischer Turnerbundに所属している体操クラブも含め、1849年3月に集会を開催するよう、要望した。しかし、本部事務局のライプツィヒがそれに応じなかったため、ニーダーザクセン地区体操クラブの代表者たちは、その地区総会で、同年の8月5日にアイゼナハで集会を開催することを決議し、7月21日にドイツのすべての体操クラブに参加を呼び掛けた。その結果、アイゼナハにおいて、3つ目の同盟が、つまりDer Allgemeine Deutsche Turnerbundが設立されたが、この同盟の設立によっても、ドイツのすべての体操クラブを統合し全国組織を結成することはできなかった。

Demokratischer Turnerbundは、1849年初夏のプファルツ-バーデンの蜂起の際の指揮者であっ

たシャートナーや共和制を支持する体操家がスイスを越えてイギリスやアメリカに亡命したことにより、指導者を失い衰退していった。

1849年12月20日、エルバーフェルト体操クラブは、その回状のなかで、「本部事務局ライブツィヒはDeutscher Turnerbundを見殺しにするのか」と嘆き、できるだけ早く本同盟に首脳部を与えることを要望した。雑誌「Turner」中で本部事務局のライブツィヒから新本部事務局の選挙が公示され、郵便投票の結果、1850年1月16日、ハノーファー男性体操クラブが、新しい本部事務局に選出された。

Der Allgemeine Deutsche Turnerbundの暫定的な本部事務局であったブラウンシュヴァイク体操クラブは、1850年3月31日アイゼナハで集会を開催することを、同様にDeutscher Turnerbundの本部事務局ハノーファー男性体操クラブも同日アイゼナハで体操クラブの統合のための集会を開催することを公示した。この集会には、ドイツ諸邦から71の体操クラブが参集し、特に会則の中の「同盟の目的についての条項」について、それぞれの代表委員をとoshi協議されたが、合意には至らなかった。この集会の結果として、約1,000名の会員と17の体操クラブを抱えていたニーダーライン・ヴェストファーレン体操同盟と、プレーメン体操クラブが、Deutscher Turnerbundに加盟することを表明し、本同盟は、徐々に組織基盤を拡大していった。

それに対し、Der Allgemeine Deutsche Turnerbundの暫定的本部事務局であったブラウンシュヴァイク体操クラブは、1850年5月11日の同盟総会において、ハノーファーの下にあるDeutscher Turnerbundに加盟することを決議し、同年8月4日と5日カッセルにおいて行われた体操祭のうちに、Der Allgemeine Deutsche Turnerbundの存続を放棄した。

1850年9月21日から23日までのDeutscher Turnerbundの体操祭には、地域を越えた22の体操クラブが参加した。1851年時点で、本同盟は、51の体操クラブと3,139名の会員を抱える全国規模の組織であった。

3. 国家による弾圧

ヘッセン大公国政府は、1849年3月28日のドイツ帝国憲法の16条を適用し、同年9月にすべての国民集会を禁止した。プロイセン政府も、1850年3月に結社法を公布し、その他のドイツ諸邦もこの結社法に従った。この結社法では、政治的クラブと他の同じようなクラブとの結合を禁止し、体操クラブも政治的な傾向を示すと、結社法の適用を受けるというものであった。Deutscher Turnerbundに加盟しているクラブやニーダーライン・ヴェストファーレン地区同盟に加盟しているクラブも、この結社法や1851年8月28日に公布された連邦結社法の適用の犠牲に落ちた。

1851年3月25日の回状の中で、本部事務局ハノーファーは、次のように勇気を衰えさせないことを誓っている。

「同盟には、その会員たちが今までのように離れていても力の限り体操に尽力することを決めている多くの力強いクラブが存在する」

また、本部事務局のハノーファーは、1852年の同盟総会の開催を思いとどまらせ、1853年の総会も会則で規定されているイースターの時ではなく、同年8月の地区体操祭の時に合わせて開催すること

を提案した。

4. Deutscher Turnerbundの存続

本部事務局ハノーファーは、Deutscher Turnerbundの存続を議論するため、1856年1月6日、総会を招集した。16の体操クラブが、その総会に出席し、会則に沿って採決した結果、参加クラブ中9つのクラブが存続に賛成した。その結果、Deutscher Turnerbundの存続が承認され、さらには、ハノーファーのあと2年間の本部事務局の継続が確認された。革命前や革命中に設立されたライン・ヘッセンの40を超える体操クラブの中で生き延びているクラブは、1850年代その消防＝救済部隊の背後に隠れ、またDeutscher Turnerbundの存続が示しているように、体操促進運動の完全なる粉砕は1850年代は行われなかった。

本部事務局ハノーファーは、1856年7月25日の回状の中で、ライプツィヒにおいて新たに刊行される「ドイツ体操新聞」の予約購読を会員に勧めている。1857年10月18日のハノーファーにおける総会で、投票の結果、ハンブルクが本部事務局に選出された。

本部事務局ハンブルクは、1858年5月17日の回状の中で、「本部事務局と会員間の活発な相互作用を要求し、本部事務局から発せられるシグナルは、すべての体操クラブの中で反響を見出し、そして新鮮な精神を呼び起こさせるようであればならない」と述べた。

1859年11月20日のハンブルクにおける総会において、本同盟の新しい会則が採択された。本会則の1条(目的)において、「本同盟は、体操家の諸努力のための一つの中心を形成する」と定められ、またその1条には、アイゼナハでの1850年3月31日の次のような決議が、脚注として付された。

「体操クラブの政治的加担は、つまり当然Deutscher Turnerbundの政治的加担も排除されるべきである。」

また、本総会で、シュターデの男性体操クラブが、新たに本部事務局に選出された。

5. コーブルク (1860) とベルリン (1861) におけるドイツ体操祭

ルーネブルク男性体操クラブは、体操家一人をコーブルクに派遣し、その者に審議や議決に参加する権利を与えた。コーブルクの審議のなかで、ベルリンの体操家レンツは、「以前から、我々がDeutscher Turnerbundと呼んだところの一般的な統合は存在している」と述べている。この審議に参加した体操家たちは、Deutscher Turnerbundの存続や、その同盟の北ドイツへの地域的な限定は認識していた。コーブルク以来、“ein allgemeine deutsche Turnerbund”の設立は、Deutsche Turnerschaftとみなされ、それは、1850年以来存続していた結社法や警察の監視のために法律上不可能であった。F.ゲッツは、「ドイツ体操新聞」の中で、「政府はそれに対し何を言うであろうか？」と不安な気持ちを吐露している。

第2回ドイツ体操祭のおりに行われた総会において、ドイツ体操委員会の原型である“5人委員会”と、15名から構成される“拡大委員会”が発足した。その拡大委員会のメンバーに、Deutscher Turnerbundの首脳部であるH.シェファーも選出された。1861年12月28日と29日にゴータでこの拡大

委員会が開催され、その席上、その後の体操家たちの指導原理（体操は政治から離れる）や、ドイツを15の体操大管区に区分することが採択された。1862年ルーネブルクで第1回ニーダーザクセン小管区体操祭が開催されたが、その小管区自体が、Deutscher Turnerbundの統括領域と重なっていた。Deutscher Turnerbundは、この体操区分の中に埋没していった。

6. Deutsche Turnerschaftの設立

1868年7月20日と21日にヴァイマルにおける総会において、Deutsche Turnerschaftが、会則の採択をとおり正式に創設された。その直接的なきっかけを与えたのが、オーストリアの体操家たちであった。1866年のハプスブルク家の敗北によって、いわゆる市民内閣が組織され、帝国議会において、クラブの結合を認める新しい結社法が1867年11月15日採択された。これにより、オーストリアの体操家たちは大きな浮力を獲得し、ニーダーオーストリア小管区同盟は、オーストリアードイツ体操クラブの大管区同盟の結成を提案した。1868年1月20日その同盟の会則がオーストリア内務省に送付された。その会則では、体操家はドイツの体操促進運動のための一つ体操大管区を組織すると定められており、そのことは、60年代のドイツーオーストリア王家に対するチェコ民族のソコル運動へ同調しない態度を示すことにつながった。オーストリア内務省は、この結成に基本的に合意したが、一方で、オーストリア体操大管区のドイツ体操促進運動への結合への疑念も持ち上がり、その運動の本質と目的を明確するために、連盟の会則の提示が求められた。このようなオーストリア内務省の求めに応じるかたちで、オーストリアの体操家のDr.シュティングルが草案を作成し、ヴァイマルでのドイツ体操連盟の総会に提出した。特別委員会でその案は練り上げられた後、翌日21日の総会でDeutsche Turnerschaftの会則が採択された。この会則においても、1848年に激しく議論された同盟の目的については、「Deutsche Turnerschaftの目的は、身体的そして精神的強化のための手段としてのドイツ体操の高揚である」と定められた。

7. 結び

確かにコーブルク1860年とヴァイマル1868年は、ドイツ体操の歴史において特別な年であるが、同盟の実際的な設立日は、1848年4月2日、3日である。分裂（1848年7月3日ハーナウ）、統合への試み（1850年3月31日アイゼナハ）、自己解散の危機（1856年ハノーファー）、結集（1860年6月16日～19日コーブルク）、最終的な会則制定（1868年7月20日・21日）であった。Deutscher Turnerbundは、まず1848年に最初の会則を定め、1850年のアイゼナハや1859年にハンブルクにおいて会則を改訂したが、すべての会則は - 1868年の会則を含め - “体操は政治から離れなければならない”と定めている。それにも関わらず、ドイツの統一が体操家の最終目的であったという共通性も持っている。